

2022年度 グローバル人材育成プログラム科目一覧

グローバル人材育成プログラム科目	担当者	開講キャンパス	開講期	曜日	時限	教室	単位数	配当年次	備考
留学準備科目群									
留学のススム	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ハイブリッド科目 (メディア授業併設科目)として開講します	春	火	4	和泉キャンパス 第一校舎:415	2	1~4	この授業はハイブリッド科目として実施します。対面科目を履修登録する方は、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加してください。メディア授業科目を履修登録する方は、受講にあたっては、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
日本社会・文化理解講座	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ハイブリッド科目 (メディア授業併設科目)として開講します	秋	火	4	和泉キャンパス 第一校舎:209	2	1~4	この授業はハイブリッド科目として実施します。対面科目を履修登録する方は、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加してください。メディア授業科目を履修登録する方は、受講にあたっては、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
東南アジア理解講座	タンシリントンチャイ, ウィライラック	メディア授業科目	春	木	5	特に定めなし	2	1~4	この授業はタイとの遠隔授業(メディア授業科目)として実施します。定員は各15名です。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、履修者を決定しますので、初回授業に必ず出席してください。受講にあたっては、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
		メディア授業科目	秋	木	5	特に定めなし			
国際協力理解科目群									
グローバル・イシュー総論	源 由理子	和泉/メディア授業科目 ハイブリッド科目 (メディア授業併設科目)として開講します	春	水	2	和泉キャンパス 第一校舎:204	2	1~4	この授業はハイブリッド科目として実施します。対面科目を履修登録する方は、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加してください。メディア授業科目を履修登録する方は、受講にあたっては、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
海外留学科目群									
海外テーマ特化型研修	タンシリントンチャイ, ウィライラック	ベトナム	夏期集中		—	—	2	1~4	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学 カリフォルニア大学デービス校コミュニケーション文化コース カリフォルニア大学デービス校英語サイエンスコース カリフォルニア大学デービス校英語グローバルビジネスコース スタンフォード大学: American Language and Culture: Silicon Valley ペンシルベニア大学: Institute for Academic and Professional Studies (IAPS) ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ異文化理解プログラム
	三牧 純子	アメリカ	秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	アメリカ	秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	アメリカ	秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	アメリカ	夏期集中		—	—			
	三牧 純子	アメリカ	秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	イギリス	夏期集中		—	—			
単位認定型留学	菊地 端夫	—	夏期・秋学期集中		—	—	2	1~4	—
海外語学研修(英語)	横川 綾子	アメリカ	秋学期集中		—	—	2	1~4	ワシントン大学 アデレード大学 ユークオン大学 プリティッシュ・コロンビア大学 ビクトリア大学 オー克蘭ド大学 エンデラン大学3週間 エンデラン大学6週間 ペンシルベニア大学ELP(国内実施)
	横川 綾子	オーストラリア	秋学期集中		—	—			
	横川 綾子	カナダ	秋学期集中		—	—			
	横川 綾子	カナダ	秋学期集中		—	—			
	横川 綾子	カナダ	秋学期集中		—	—			
	横川 綾子	ニュージーランド	秋学期集中		—	—			
	横川 綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中		—	—			
横川 綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中		—	—				
横川 綾子	日本国内	秋学期集中		—	—				
海外語学研修(ドイツ語)	仲谷 ちはる	オーストリア	夏期集中		—	—	2	1~4	ウィーン大学
海外語学研修(フランス語)	仲谷 ちはる	フランス	夏期集中		—	—	2	1~4	リヨンカトリック大学
海外語学研修(スペイン語)	仲谷 ちはる	スペイン	秋学期集中		—	—	2	1~4	バルセロナ自治大学
海外語学研修(中国語)	仲谷 ちはる	中国	秋学期集中		—	—	2	1~4	北京大学
単位認定型短期留学(語学)	菊地 端夫	—	夏期・秋学期集中		—	—	1	1~4	—
単位認定型留学(語学)	菊地 端夫	—	夏期・秋学期集中		—	—	2	1~4	—
実習科目群									
短期国際協力フィールドワーク(国内)	菊地 端夫	和泉	春	木	4	和泉キャンパス メディア棟: M405	1	1~4	この授業は履修定員を設けています。先着15名としますので、時間割公開後に科目が掲載されているか必ず確認をしてください。掲載されている場合は、履修可能です。
短期海外実習	タンシリントンチャイ, ウィライラック	タイ	秋学期集中		—	—	1	1~4	東南アジアにおける2週間ボランティア Cross-Cultural Camp Study Tour Exploring Social Innovation
	三牧 純子	台湾	秋学期集中		—	—			
	タンシリントンチャイ, ウィライラック	ベトナム	秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	アメリカ	秋学期集中		—	—			
単位認定型短期海外実習	菊地 端夫	—	夏期・秋学期集中		—	—	1	1~4	—
海外実習	タンシリントンチャイ, ウィライラック	タイ	秋学期集中		—	—	2	1~4	東南アジアにおける4週間インターンシップ ベトナムインターンシップ オーストラリアインターンシップ
	タンシリントンチャイ, ウィライラック	ベトナム	夏期・秋学期集中		—	—			
	三牧 純子	オーストラリア	夏期集中		—	—			
単位認定型海外実習	菊地 端夫	—	夏期・秋学期集中		—	—	2	1~4	—
長期海外実習	仲谷 ちはる	—	秋		—	—	8	2~4	国連コースボランティア・プログラム 長期海外実習, 海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また、履修する場合、当該学期に他の科目を履修することはできません。
海外実習課題研究	仲谷 ちはる	—	秋		—	—	4	2~4	国連コースボランティア・プログラム 長期海外実習, 海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また、履修する場合、当該学期に他の科目を履修することはできません。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
留学のスズメ	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary)>> 本講座では、国際的に活躍する講演者たちが自身の留学体験や海外での勤務経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的としている。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。 <<到達目標 (Course Objectives)>> 学生は本講座を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	4/12	イントロダクション 海外留学の意義		仲谷 ちはる	
2.	4/19	海外における‘Take & Give’の実体験 ～現代の留学の意義～		森住 衛 (大阪大学・桜美林大学名誉教授)	
3.	4/26	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活		拜田 清 (和洋女子大学教授)	
4.	5/10	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法		安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)	
5.	5/17	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について		仲谷 ちはる	
6.	5/24	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる！		オースティン オーガー (CB&I 代表取締役)	
7.	5/31	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか？[メディア授業科目 (リアルタイム型)]		高城 宏行 (玉川大学准教授)	
8.	6/7	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して		吉野 康子 (順天堂大学准教授)	
9.	6/14	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び		中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)	
10.	6/21	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について		仲谷 ちはる	
11.	6/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業科目 (オンデマンド型)]		橘 広司 (金城学院大学准教授)	
12.	7/5	「自文化」理解の重要性		藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)	
13.	7/12	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業科目 (オンデマンド型)]		二瓶 知子 (明治大学国際連携機構特任准教授)	
14.	7/19	第11～13回振り返り及びまとめ		仲谷 ちはる	

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) 本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 国際交流ラウンジでの国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと、留学相談や英語学習のアドバイジング制度の利用を強く勧める。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., & Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i> . Springer. 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社) 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価を行う。 (1) 授業における貢献度：40% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) リアクションペーパー：30% ※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。 (3) 期末レポート：30% ※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。 ※対面式での試験は行わない。
8 その他 (Other) 他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。 この授業は和泉キャンパスにて対面科目として開講される科目である。(ハイブリッド科目のため、授業内容はメディア授業科目受講者へ配信する。) 外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meijiにてお知らせを配信する。 対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録すること。 なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、期中でメディア授業 (オンライン) のみへ変更となる可能性もある。その場合はシラバスの補足で周知する。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
留学のスズメ [M]	1～4年	春・火・4	2単位	メディア授業 科目	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary)>> 本講座では、国際的に活躍する講演者たちが自身の留学体験や海外での勤務経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的としている。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。 <<到達目標 (Course Objectives)>> 学生は本講座を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	4/12	イントロダクション 海外留学の意義 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
2.	4/19	海外における‘Take & Give’の実体験 ～現代の留学の意義 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	森住 衛 (大阪大学・桜美林大学名誉教授)		
3.	4/26	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	拜田 清 (和洋女子大学教授)		
4.	5/10	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)		
5.	5/17	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
6.	5/24	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる！ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	オースティン オーガー (CB&I 代表取締役)		
7.	5/31	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか？ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	高城 宏行 (玉川大学准教授)		
8.	6/7	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	吉野 康子 (順天堂大学准教授)		
9.	6/14	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
10.	6/21	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
11.	6/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業科目 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)		
12.	7/5	「自文化」理解の重要性 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)		
13.	7/12	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業科目 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学国際連携機構特任准教授)		
14.	7/19	第11～13回振り返り及びまとめ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) 本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 国際交流ラウンジでの国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと、留学相談や英語学習のアドバイジング制度の利用を強く勧める。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., & Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i> . Springer. 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社) 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価を行う。 (1) 授業における貢献度：40% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) リアクションペーパー：30% ※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。 (3) 期末レポート：30% ※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。 ※対面式での試験は行わない。
8 その他 (Other) 他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。 この授業はメディア授業科目として開講される。授業は、原則、和泉キャンパスで実施している対面授業の動画をリアルタイムで配信するが、オンデマンド型配信の場合もある。 オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録すること。 なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。 毎回の講義動画に対して、授業終了後に振り返りのレポート (リアクションペーパー) を実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
日本社会・文化理解講座	1～4年	秋・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<<概要 (Course Summary)>> 海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。本講座では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めていくことを目的としている。					
<<到達目標 (Course Objectives)>> 本講座では、文化のみではなく、言語、教育、宗教、政治、経済等の様々なテーマについて扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	9/20	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義	仲谷 ちはる		
2.	9/27	文化の相対化とは～日本の社会と文化をより深く理解するために	拜田 清 (和洋女子大学教授)		
3.	10/4	英語で説明するニッポン～日本の未来を考えよう	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
4.	10/11	日本語教師の立場から見た国際事情	西 厚子 (元東京家政大学非常勤講師)		
5.	10/18	第2～4回振り返り及び自文化理解	仲谷 ちはる		
6.	10/25	個性的であれ！寅さん人生も悪くない	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)		
7.	11/8	「常識」とはなんでしょう？ 日常の生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！	オースティン オーガー (CB&I 代表取締役)		
8.	11/15	日本のなかの言語多様性～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業科目(オンデマンド型)]	橋 広司 (金城学院大学准教授)		
9.	11/22	異文化の中で生き抜く力とは	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
10.	11/29	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理	仲谷 ちはる		
11.	12/6	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション	三遊亭 竜楽 (落語家)		
12.	12/13	太神楽とは何か～おめでたいを世界へ	鏡味 味千代 (太神楽師)		
13.	12/20	社会とことば～日本語教育の視点から [メディア授業科目(オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学国際連携機構特任准教授)		
14.	1/10	第11～13回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる		

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)
本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。教科書は特に定めませんが、参考書を読むことを推奨する。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)
授業中に配布する資料や参考書に目を通し、予備知識を得ておくこと。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)
『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)
『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』松田悠介 著 (ダイヤモンド社)
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価を行う。
(1) 授業における貢献度：40%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) リアクションペーパー：30%
※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。
(3) 期末レポート：30%
※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。
※対面式での試験は行わない。
8 その他 (Other)
他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。
また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。
この授業は和泉キャンパスにて対面科目として開講される科目である。(ハイブリッド科目のため、授業内容はメディア授業科目受講者へ配信する。) 外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meijiにてお知らせを配信する。
対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録すること。
なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、期中でメディア授業 (オンライン) のみへ変更となる可能性もある。その場合はシラバスの補足で周知する。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
日本社会・文化理解講座 [M]	1～4年	秋・火・4	2単位	メディア授業科目	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ≪概要 (Course Summary)≫ 海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。本講座では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めていくことを目的としている。 ≪到達目標 (Course Objectives)≫ 本講座では、文化のみではなく、言語、教育、宗教、政治、経済等の様々なテーマについて扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	9/20	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
2.	9/27	文化の相対化とは～日本の社会と文化をより深く理解するために [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	拜田 清 (和洋女子大学教授)		
3.	10/4	英語で説明するニッポン～日本の未来を考えよう [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
4.	10/11	日本語教師の立場から見た国際事情 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	西 厚子 (元東京家政大学非常勤講師)		
5.	10/18	第2～4回振り返り及び自文化理解 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
6.	10/25	個性的であれ！寅さん人生も悪くない [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)		
7.	11/8	「常識」とはなんでしょう？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	オースティン オーガー (CB&I 代表取締役)		
8.	11/15	日本のなかの言語多様性～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業科目 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)		
9.	11/22	異文化の中で生き抜く力とは [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
10.	11/29	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理 [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		
11.	12/6	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	三遊亭 竜楽 (落語家)		
12.	12/13	太神楽とは何か～おめでたいを世界へ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	鏡味 味千代 (太神楽師)		
13.	12/20	社会とことば～日本語教育の視点から [メディア授業科目 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学国際連携機構特任准教授)		
14.	1/10	第11～13回振り返り及びまとめ [メディア授業科目 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる		

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) 本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。教科書は特に定めませんが、参考書を読むことを推奨する。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 授業中に配布する資料や参考書に目を通し、予備知識を得ておくこと。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング) 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング) 『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』松田悠介 著 (ダイヤモンド社) 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価を行う。 (1) 授業における貢献度：40% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) リアクションペーパー：30% ※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。 (3) 期末レポート：30% ※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。 ※対面式での試験は行わない。
8 その他 (Other) 他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。この授業はメディア授業科目として開講される。授業は、原則、和泉キャンパスで実施している対面授業の動画をリアルタイムで配信するが、オンデマンド型配信の場合もある。 オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録すること。 メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。 なお、毎回の講義動画に対して、授業終了後に振り返りのレポート (リアクションペーパー) を実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 [M]	1～4年	春・木・5	2単位	メディア授業科目	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 2. あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 3. タイ人の自己紹介 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 4. タイ人の方向感覚 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 5. タイ人と日本人の意見・感情の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 6. まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 7. タイの若者のライフスタイル [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 8. タイおよびアセアン諸国の食文化 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 9. タイ人のコミュニケーション方法 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 10. タイ人の時間の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 11. まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 12. タイ人の経験・願望の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 13. タイ文字 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 14. a: 総まとめ、b: プレゼンテーション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業 (リアルタイム配信型のオンライン授業) である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。</p>					
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。</p>					

<p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店)</p> <p>『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂)</p> <p>『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 20% (クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間レポート 25% ・最終レポート 35% <p>※対面形式での試験は行わない。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される。授業は全て講義動画をリアルタイムで配信する。(タイで実施している授業を配信するオンライン科目である。)</p> <p>メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 [M]	1～4年	秋・木・5	2単位	メディア授業科目	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 2. あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 3. タイ人の自己紹介 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 4. タイ人の方向感覚 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 5. タイ人と日本人の意見・感情の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 6. まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 7. タイの若者のライフスタイル [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 8. タイおよびアセアン諸国の食文化 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 9. タイ人のコミュニケーション方法 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 10. タイ人の時間の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 11. まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 12. タイ人の経験・願望の表現 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 13. タイ文字 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 14. a: 総まとめ、b: プレゼンテーション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業 (リアルタイム配信型のオンライン授業) である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。</p>					
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。</p>					

<p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店)</p> <p>『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂)</p> <p>『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 20% (クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間レポート 25% ・最終レポート 35% <p>※対面形式での試験は行わない。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される。授業は全て講義動画をリアルタイムで配信する。(タイで実施している授業を配信するオンライン科目である。)</p> <p>メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
グローバル・イシュー総論	1～4年	春・水・2	2単位	和泉	源 由理子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>本授業では、現代社会が直面する地球規模の課題 (グローバル・イシュー) について、一見私たちにとって日常生活からかけ離れているように見える課題が、実は生活と深く関わっていることを多角的な視点からとらえていく。そして、「国際協力」の視点から、それら課題解決に向けて多様な主体 (政府、政府機関、国際機関、民間企業、NPO/NGO 等) がどのように連携して取り組んでいるのか、その現状と課題についてそれぞれの分野を専門としている本学教員・外部講師が関連した事例とともに検討していく。</p> <p>グローバルな視点から社会の課題を考えることで、私たち自身のローカルな課題の解決に向けての気づきをもたらすとともに、グローバルな人材としてこれから社会で活躍するためのグローバル・イシューの基礎知識の修得を到達目標とする。</p> <p>なお本授業は、本学教員 3 名 (ガバナンス研究科) と外部講師 2 名 (国際開発コンサルタント、JICA) により構成する。外部講師は明治大学を卒業し国際協力の第一線で活躍している方を招聘し、現場での実践をとおした知見について学ぶ機会を提供していただく。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>1. イントロダクション (担当: ガバナンス研究科 源由理子)</p> <p>グローバル・イシュー (地球規模の課題) とは何か。背景にある複雑な要因と社会の多様な主体の関わりについて概観する。</p> <p>2. 「貧困問題」とは何か (担当: 源)</p> <p>国内外の貧富の格差拡大について、グローバル経済がもたらす光と影に焦点をあてながらその現状について考察し、「貧困」を再定義する。</p> <p>3. MDGs から SDGs へ (担当: 源)</p> <p>開発途上国の課題から先進国を含む課題への広がりについて、その歴史的変遷を国連、グローバル企業、国際 NGO の動きとともに概観する。</p> <p>4. 国際協力・開発援助の仕組み (担当: 源)</p> <p>国際協力の担い手は複数ある。それぞれの実施形態の特徴と連携について概観する。</p> <p>5. 青年海外協力隊の取組み ―南米パラグアイでの農村コミュニティ支援― (担当: 国際開発コンサルタント 稲葉健一)</p> <p>明治大学政治経済学部卒業後、社会人経験を経て青年海外協力隊参加に至った動機、活動内容、帰国後の仕事を紹介する。</p> <p>6. 人間の安全保障 (1) (担当: ガバナンス研究科 戸田隆夫)</p> <p>人間の安全保障が生成した時代背景および人間の安全保障が日本の対外政策において主流化されるプロセスを鳥瞰し、理念と社会変動の関係性を考察する。</p> <p>7. 人間の安全保障 (2) (担当: 戸田)</p> <p>(上記の続き)</p> <p>8. 国際保健外交-日本のリーダーシップとその課題 (担当: 戸田)</p> <p>「反動的」と特徴づけられてきた日本外交において、能動的なリーダーシップを発揮してきた国際保健外交の軌跡をたどり、コロナ後の露呈した課題を考察する。</p> <p>9. 日本の二国間開発協力: JICA の取組 (担当: JICA 富田洋行)</p> <p>基本的な JICA 事業概要と今後の方向性の模索について概観する。併せて途上国での JICA 職員の業務経験を紹介する。</p> <p>10. NGO の取組 (1) (担当: ガバナンス研究科 長畑誠)</p> <p>いわゆる「途上国」の草の根の現場で活躍する NGO の活動を概観し、その課題を考える。</p> <p>11. NGO の取組 (2) (担当: 長畑)</p> <p>気候変動や平和と軍縮、人権等、国境を超えた課題に取り組む NGO の活動を概観し、その課題を考える。</p> <p>12. 市民社会と国際協力 (担当: 長畑)</p> <p>グローバルな課題は、日本社会とも繋がっている。海外と日本とを繋ぐ NGO の活動を例に市民として何をすべきかを考える。</p> <p>13. 新時代のグローバル協力 (担当: 戸田)</p> <p>グローバルイシューという概念生成の背景と変遷を概観し、今日の文脈において、グローバルイシューに対する国際社会の取組みの構造的変容の方向性を考察する。</p>					

14. まとめ-改めてグローバルイシューとは [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 源)
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>授業では講義のみならず、可能な限り双方向の授業を行い、学生同士の意見交換ができるようなアクティブラーニングの場を創出する。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>(予習) 事前配布の資料がある場合は、資料を読み込んでくること。</p> <p>(復習) 各回の復習を踏まえ、授業参加レポート (リアクションペーパー) を提出すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特定の教科書は使用しない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>各回に該当する参考書は以下のとおり。授業内で必ずしも使用するものではないが、予習、復習で活用すること。</p> <p>(1～4)</p> <p>『貧困問題とは何であるか～開発学への新しい道』下村恭民・小林誉明編著 (勁草書房) 2009 年</p> <p>『国際協力～その新しい潮流』下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由紀子 (有斐閣選書) 2017 年</p> <p>『不平等の再検討～潜在能力と自由』アマルティア・セン (岩波書店) 1999 年</p> <p>『SDGs を学ぶ: 国際開発・国際協力入門』高柳彰夫・大橋正明編著 (法律文化社)</p> <p>(6～7)</p> <p>『人間の安全保障』、アマルティア・セン (集英社新書) 2006 年</p> <p>『安全保障の今日的課題』人間の安全保障委員会報告書 (朝日新聞社) 2003 年</p> <p>(8)</p> <p>「Japan's Leadership for Human Security with/after COVID-19」, Toda Takao, Asia Pacific Review・Vol.27・No.2・November2020 (Taylor & Francis (Routledge), pp.26-45. https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13439006.2020.1841950</p> <p>「UHC 実現に向けての日本・JICA の取り組み」、戸田隆夫</p> <p>https://japan-who.or.jp/wp-content/themes/rewho/img/PDF/library/061/book6704.pdf</p> <p>(10～12)</p> <p>『グローバル時代の「開発」を考える』西あい・湯本浩之編著 (明石書店) 2017 年</p> <p>『国際協力 NGO のフロンティア』金敬黙・福武慎太郎・多田透・山田裕史編著 (明石書店) 2007 年</p> <p>(13)</p> <p>「Why wisdom is the most important value in the Great Reset」戸田隆夫 (世界経済フォーラム (WEF) スイス)</p> <p>https://www.weforum.org/agenda/authors/takao-toda</p> <p>『アフターコロナー見えてきた 7 つのメガトレンド』島津翔ほか著 (日経 BP) 2020 年</p> <p>『開発を問い直す 転換する世界と日本の国際協力』西川潤ほか編著 (日本評論社) 2011 年</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>毎回の授業参加レポート (1 枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 40%</p> <p>期末レポートの質的水準 60%</p> <p>※対面形式での試験は行わない。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>この授業は、和泉キャンパスにて対面科目として開講される科目である。(ハイブリッド科目のため、授業内容はメディア科目授業受講者へ配信する。)</p> <p>対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、期中でメディア授業 (オンライン) のみへ変更となる可能性もある。その場合はシラバスの補足で周知する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
グローバル・イシュー総論 [M]	1～4年	春・水・2	2単位	メディア授業 科目	源 由理子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>本授業では、現代社会が直面する地球規模の課題 (グローバル・イシュー) について、一見私たちにとって日常生活からかけ離れているように見える課題が、実は生活と深く関わっていることを多角的な視点からとらえていく。そして、「国際協力」の視点から、それら課題解決に向けて多様な主体 (政府、政府機関、国際機関、民間企業、NPO/NGO 等) がどのように連携して取り組んでいるのか、その現状と課題についてそれぞれの分野を専門としている本学教員・外部講師が関連した事例とともに検討していく。</p> <p>グローバルな視点から社会の課題を考えることで、私たち自身のローカルな課題の解決に向けての気づきをもたらすとともに、グローバルな人材としてこれから社会で活躍するためのグローバル・イシューの基礎知識の修得を到達目標とする。</p> <p>なお本授業は、本学教員3名 (ガバナンス研究科) と外部講師2名 (国際開発コンサルタント、JICA) により構成する。外部講師は明治大学を卒業し国際協力の第一線で活躍している方を招聘し、現場での実践をとおした知見について学ぶ機会を提供していただく。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>1. イントロダクション [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 源由理子)</p> <p>グローバル・イシュー (地球規模の課題) とは何か。背景にある複雑な要因と社会の多様な主体の関わりについて概観する。</p> <p>2. 「貧困問題」とは何か [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 源)</p> <p>国内外の貧富の格差拡大について、グローバル経済がもたらす光と影に焦点をあてながらその現状について考察し、「貧困」を再定義する。</p> <p>3. MDGs から SDGs へ [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 源)</p> <p>開発途上国の課題から先進国を含む課題への広がりについて、その歴史の変遷を国連、グローバル企業、国際 NGO の動きとともに概観する。</p> <p>4. 国際協力・開発援助の仕組み [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 源)</p> <p>国際協力の担い手は複数ある。それぞれの実施形態の特徴と連携について概観する。</p> <p>5. 青年海外協力隊の取組み —南米パラグアイでの農村コミュニティ支援— [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 国際開発コンサルタント 稲葉健一)</p> <p>明治大学政治経済学部卒業後、社会人経験を経て青年海外協力隊参加に至った動機、活動内容、帰国後の仕事を紹介する。</p> <p>6. 人間の安全保障 (1) [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 戸田隆夫)</p> <p>人間の安全保障が生成した時代背景および人間の安全保障が日本の対外政策において主流化されるプロセスを鳥瞰し、理念と社会変動の関係性を考察する。</p> <p>7. 人間の安全保障 (2) [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 戸田)</p> <p>(上記の続き)</p> <p>8. 国際保健外交-日本のリーダーシップとその課題 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 戸田)</p> <p>「反応的」と特徴づけられてきた日本外交において、能動的なリーダーシップを発揮してきた国際保健外交の軌跡をたどり、コロナ後の露呈した課題を考察する。</p> <p>9. 日本の二国間開発協力: JICA の取組 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: JICA 富田洋行)</p> <p>基本的な JICA 事業概要と今後の方向性の模索について概観する。併せて途上国での JICA 職員の業務経験を紹介する。</p> <p>10. NGO の取組 (1) [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 長畑誠)</p> <p>いわゆる「途上国」の草の根の現場で活躍する NGO の活動を概観し、その課題を考える。</p> <p>11. NGO の取組 (2) [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 長畑)</p> <p>気候変動や平和と軍縮、人権等、国境を超えた課題に取り組む NGO の活動を概観し、その課題を考える。</p> <p>12. 市民社会と国際協力 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 長畑)</p> <p>グローバルな課題は、日本社会とも繋がっている。海外と日本とを繋ぐ NGO の活動を例に市民として何をすべきかを考える。</p> <p>13. 新時代のグローバル協力 [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 戸田)</p> <p>グローバルイシューという概念生成の背景と変遷を概観し、今日の文脈において、グローバルイシューに対する国際社会の取組みの構造的変容の方向性を考察する。</p>					

14. まとめ-改めてグローバルイシューとは [メディア授業科目 (リアルタイム型)] (担当: 源)
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>授業では講義のみならず、可能な限り双方向の授業を行い、学生同士の意見交換ができるようなアクティブラーニングの場を創出する。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>(予習) 事前配布の資料がある場合は、資料を読み込んでくること。</p> <p>(復習) 各回の復習を踏まえ、授業参加レポート (リアクションペーパー) を提出すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特定の教科書は使用しない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>各回に該当する参考書は以下のとおり。授業内で必ずしも使用するものではないが、予習、復習で活用すること。</p> <p>(1～4)</p> <p>『貧困問題とは何であるか～開発学への新しい道』下村恭民・小林誉明編著 (勁草書房) 2009年</p> <p>『国際協力～その新しい潮流』下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由紀子 (有斐閣選書) 2017年</p> <p>『不平等の再検討～潜在能力と自由』アマルティア・セン (岩波書店) 1999年</p> <p>『SDGs を学ぶ: 国際開発・国際協力入門』高柳彰夫・大橋正明編著 (法律文化社) (6～7)</p> <p>『人間の安全保障』、アマルティア・セン (集英社新書) 2006年</p> <p>『安全保障の今日的課題』人間の安全保障委員会報告書 (朝日新聞社) 2003年 (8)</p> <p>「Japan's Leadership for Human Security with/after COVID-19」, Toda Takao, Asia Pacific Review・Vol.27・No.2・November2020 (Taylor & Francis (Routledge), pp.26-45. https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13439006.2020.1841950)</p> <p>「UHC 実現に向けての日本・JICA の取り組み」、戸田隆夫 https://japan-who.or.jp/wp-content/themes/rewho/img/PDF/library/061/book6704.pdf (10～12)</p> <p>『グローバル時代の「開発」を考える』西あい・湯本浩之編著 (明石書店) 2017年</p> <p>『国際協力 NGO のフロンティア』金敬黙・福武慎太郎・多田透・山田裕史編著 (明石書店) 2007年 (13)</p> <p>「Why wisdom is the most important value in the Great Reset」戸田隆夫 (世界経済フォーラム (WEF) スイス) https://www.weforum.org/agenda/authors/takao-toda</p> <p>『アフターコロナー見えてきた7つのメガトレンド』島津翔ほか著 (日経 BP) 2020年</p> <p>『開発を問い直す 転換する世界と日本の国際協力』西川潤ほか編著 (日本評論社) 2011年</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>毎回の授業参加レポート (1枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 40%</p> <p>期末レポートの質的水準 60%</p> <p>※対面形式での試験は行わない。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、和泉キャンパスで実施している対面授業の動画をリアルタイム配信する。</p> <p>(和泉キャンパスで実施している授業を配信しているオンラインの科目である。)</p> <p>オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録すること。</p> <p>メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>なお、毎回の講義動画に対して、授業終了後にリアクションペーパーの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、チャット機能等を活用し可能な限り双方向の授業を実施する。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (ホーチミン市国家大学 人文社会科学大学)	1~4年	夏期集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 本講座は、アジア・ASEANに関する基本的知識や実戦的な英語力の習得を目標に、ベトナムを代表する名門校、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学において短期研修を行うものである。現在、日本企業から非常に注目されているベトナムにおける約3週間の短期研修と、日本における事前・事後の学習によって、ベトナムを中心とするASEAN地域の政治経済、社会、文化等への基本的・実戦的理解を深める。 日本とアジアをつなぐ「実務型リーダー」として将来、メーカー、商社、金融機関など実社会で活躍するためのスキルを習得し、アジアから日本と世界を展望するグローバルな視野を養う。同時に、日常の学習や実社会で役立つ実戦的な英語力を身に付けることを目指す。					
2 授業内容 (Course Contents) 【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 アジア・ASEANの概要を日本経済・日本企業の戦略と関連付けながら学ぶ。現地の短期研修について学習する内容を概観するとともに、渡航前後の留意事項、異文化適応、現地での安全対策などを理解する。またレポート課題の内容・期限についても説明する。 【短期研修】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 (ア) 派遣先教育機関 ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学 (イ) 海外テーマ特化型研修の期間および日程 2022年8月下旬~9月中旬(予定) (ウ) ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学における学習内容 授業内容は、ベトナムの文化、経済、国際関係、社会、ベトナム語入門講座で構成されています。授業では、フィールドトリップ等を通じてベトナムの生活・文化等に触れる機会も設けます。 また、課外授業として、文化イベントなどの活動を通じたベトナム国家大学の学生との交流も企画しています。 【最終回(帰国後):事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 短期研修の内容補足及び本講座の最終総括をおこなう。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (ア) 受講定員 受講定員15名(最少催行人数10名) ※受講希望者が定員を超える場合には、事前に提出する応募書類に基づき選考する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meijiシステムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (イ) 履修要件 TOEIC(IP含む)400点(TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)いずれか以上に相当する英語力を有すること。 9月卒業予定の学部生(早期卒業含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。 (ウ) 費用 短期研修参加費として約25万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ(https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html)にて、募集要項等を必ず確認すること。					

(エ) その他 所属学部・学年に拘らず、意欲のある学生の受講を歓迎する。 また、日頃から新聞記事やニュースなどに触れ、アジアに関する現実の動きに関心を持ち、講座内容と関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 留学の成果は事前準備で決まるので、教科書のほか、下記「6 参考書」の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』(明石書店、2012) 『ASEANを知るための50章』(明石書店、2015) 『図解ASEANの実力を読み解く:ASEANを理解するのに役立つ46のテーマ』(東洋経済新報社、2014)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価を行う。 (1) 事前・事後学習への貢献度(10%) (2) 帰国後に提出する最終レポートの評価(20%) (3) 研修校における評価(70%)
8 その他 (Other) 本講義の受講をきっかけにアジアへの関心を高めると同時に、英語力の向上を目指す。さらに卒業後は社会人としてアジア及び日本で活躍するため、メーカー、商社、金融機関などで、身に付けた実戦的な知識と能力を役立ててほしい。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性がある。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 コミュニケーション文化コース)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary)≫</p> <p>参加者は本講義を通じて「異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける」とともに「実践的な英語コミュニケーション能力の向上」を目指す。</p> <p>本講義は (1) 事前学習、(2) 現地研修 (海外の高等教育機関での集中講義)、および (3) 事後学習の 3 つから構成される。</p> <p>(1) 事前学習では、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。(2) 現地研修ではカリフォルニア大学デービス校で Communication and Culture に関する集中講義を受講する。そのほか、現地学生や地域社会と交流し、異文化についての理解を深める。(3) 事後学習では現地研修での成果を振り返りプレゼンテーションにまとめる。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives)≫</p> <p>グローバル化の進展に伴い、近年、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は高度化している。このような状況を踏まえ、本講座は現地研修を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化適応能力および問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p> <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) 事前学習 (全 2 回) :</p> <p>1) 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について理解し、海外学習のための準備や心構え、異文化適応にかかわる基本的な概念等を学ぶ。</p> <p>2) カリフォルニア大学デービス校で求められる能動的な学習態度・姿勢について理解し、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、同大学で学習する内容を概観し、自身の目標設定を行う。</p> <p>3) 留学生活における注意点、渡航時の留意事項 (現地での安全対策等) および最終レポートの内容について理解する。</p> <p>(2) 現地研修 :</p> <p>1) 派遣先教育機関 : カリフォルニア大学デービス校 (Communication and Culture)</p> <p>2) 派遣日程 2023 年 2 月中旬から 2023 年 3 月中旬<予定></p> <p>3) 授業内容</p> <p>以下の 4 つの集中講義を受ける (週 16 時間)。最終日には講義内容についてテストを受ける。 (なお、現地ではプログラム・アシスタント (PA) が配置されており、PA から週 1 回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることもできる)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Intercultural Research Project ・ U.S. Society and Culture ・ Listening and Pronunciation ・ Everyday Expression and Idioms <p>そのほか、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化の理解を促進する。</p> <p>(3) 事後学習 (全 1 回)</p> <p>各参加者が自身の現地研修での学びをプレゼンテーション等にまとめ、成果を最大化する (なお、帰国時までに各参加者は最終レポートを提出することが求められる)。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>※プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。</p> <p>(1) 定員 :</p> <p>40 名 (カリフォルニア大学デービス校での 3 コース合わせて)。</p> <p>受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件 :</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有すること。</p> <p>なお、3 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はしない (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 :</p> <p>短期研修参加費として約 66 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めません (オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある)。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ)</p> <p>『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行います。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (20%)</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言することを評価します。</p> <p>(2) 最終レポートの評価 (20%)</p> <p>(3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (60%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、本研修をオンラインで実施、または中止とする可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 英語サイエンスコース)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>参加者は本講義を通じて「異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける」とともに「実践的な英語コミュニケーション能力の向上」を目指す。</p> <p>本講義は (1) 事前学習、(2) 現地研修 (海外の高等教育機関での集中講義)、および (3) 事後学習の3つから構成される。</p> <p>(1) 事前学習では、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。(2) 現地研修では、参加者は理工系英語に特化した専門授業を受講するほか、実践的コミュニケーション能力の向上のためのトレーニングを受ける。また、アメリカ最先端の科学技術分野の現状を学ぶため、実際にカリフォルニア州にある企業や研究所を訪問する。米国における科学技術の現状とビジネス社会への展開事例を学ぶとともに、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。そのほか、現地学生や地域社会と交流し、異文化についての理解を深める。(3) 事後学習では現地研修での成果を振り返りプレゼンテーションにまとめる。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>グローバル化の進展に伴い、近年、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は高度化している。このような状況を踏まえ、本講座は現地研修を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化適応能力および問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p> <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) 事前学習 (全2回)</p> <p>1) 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について理解し、海外学習のための準備や心構え、異文化適応にかかわる基本的な概念等を学ぶ。</p> <p>2) カリフォルニア大学デービス校について理解し、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、同大学で学習する内容を概観し、自身の目標設定を行う。</p> <p>3) 留学生活における注意点、渡航時の留意事項 (現地での安全対策等) および最終レポートの内容について理解する。</p> <p>(2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology)</p> <p>1) 派遣先教育機関: カリフォルニア大学デービス校 (English for Science and Technology)</p> <p>2) 派遣日程 2023年2月中旬から2023年3月中旬<予定></p> <p>3) 授業内容</p> <p>以下の4つの集中講義を受ける (週16時間)。最終日には講義内容についてテストを受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Hot Topics in Science and Technology ・ Intercultural Research Project ・ Listening and Pronunciation ・ Introduction to Entrepreneurship <p>そのほか、最先端の科学技術を活用している企業や研究所を訪問する。</p> <p>(3) 事後学習 (全1回)</p> <p>各人の現地研修での学びをプレゼンテーション等にまとめ、成果を最大化する (なお、帰国時まで各自が最終レポートを提出することが求められる)。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>※プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。</p> <p>(1) 定員:</p> <p>40名 (カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて)。</p> <p>受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件:</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。</p> <p>なお、3月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はしない (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用:</p> <p>短期研修参加費として約66万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めません (オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある)。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p> <p>『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行います。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%)</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言することを評価します。</p> <p>(2) 最終レポートの評価 (20%)</p> <p>(3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、本研修をオンラインで実施、または中止とする可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 英語グローバルビジネスコース)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	三牧 純子
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary)>> 参加者は本講義を通じて「異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける」とともに「実践的な英語コミュニケーション能力の向上」を目指す。 本講義は (1) 事前学習、(2) 現地研修 (海外の高等教育機関での集中講義)、および (3) 事後学習の3つから構成される。 (1) 事前学習では、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。(2) 現地研修ではカリフォルニア大学デービス校でグローバルビジネスに関する集中講義を受講する。そのほか、現地学生や地域社会と交流し、異文化についての理解を深める。(3) 事後学習では現地研修での成果を振り返りプレゼンテーションにまとめる。 <<到達目標 (Course Objectives) >> グローバル化の進展に伴い、近年、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は高度化している。このような状況を踏まえ、本講座は現地研修を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化適応能力および問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 (1) 事前学習 (全2回): 1) 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について理解し、海外学習のための準備や心構え、異文化適応にかかわる基本的な概念等を学ぶ。 2) カリフォルニア大学デービス校で求められる能動的な学習態度・姿勢について理解し、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、同大学で学習する内容を概観し、自身の目標設定を行う。 3) 留学生活における注意点、渡航時の留意事項 (現地での安全対策等) および最終レポートの内容について理解する。 (2) 現地研修: 1) 派遣先教育機関: カリフォルニア大学デービス校 (English for Global Business) 2) 派遣日程 2023年2月中旬から2023年3月中旬<予定> 3) 授業内容 以下の4つの集中講義を受ける (週16時間)。最終日には講義内容についてテストを受ける。 (なお、現地ではプログラム・アシスタント (PA) が配置されており、PA から週1回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることもできる)。 ・ Business Communication Skills ・ Intercultural Business Research Project ・ Hot Topics in Global Business ・ Introduction to Entrepreneurship その他、デービス市の地元企業訪問や、経営者やビジネスの専門家による講義を受ける日が設けられている。 また、企業訪問に先立ち事前講習とフォローアップのための授業 (各50分) を実施する。 (3) 事後学習 (全1回) 各参加者が自身の現地研修での学びをプレゼンテーション等にまとめ、成果を最大化する (なお、帰国時までに各参加者は最終レポートを提出することが求められる)。					

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) ※プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。 (1) 定員: 40名 (カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて)。 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件: TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。 なお、3月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はしない (本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用: 短期研修参加費として約68万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない (オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある)
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ) 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行います。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言することを評価します。 (2) 最終レポートの評価 (20%) (3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)
8 その他 (Other) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、本研修をオンラインで実施、または中止とする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (スタンフォード大学 American Language and Culture Silicon Valley)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia) とスタンフォード大学との共催によるスタンフォード大学サマーセッション公式科目です。4週間のプログラムでは、英語コミュニケーション力向上のための授業のほか、アメリカ文化についての講義(社会学専攻の大学院生インストラクターによる講義)やシリコンバレーの企業訪問、そしてアメリカ文化に関する研究調査が含まれます。研究調査では、学生自身で課題設定を行い、文献調査やインタビューを行いながらレポートにまとめ、プレゼンテーションを行い、フィードバックを得るといった一連のプロジェクトを進めます。</p> <p>海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。</p> <p>このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【グローバル教養型】であり、グローバル人材として、異なる文化・価値観を尊重する基本的な姿勢・教養を身につけることを目指しています。</p> <p>到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら判断し現場に入って物事を動かす「現場力」を持った人材となる。 ・米国の多民族国家、多文化社会の現状を学ぶことを通じて、異なる文化・価値観を尊重する基本的姿勢を獲得する。 ・特定の課題について、グローバルな視点でより深く認識できるようになる。 <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>※日程・実施場所等は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。</p> <p>また、英文レポートの書き方の基本を学びます。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確にします。</p> <p>(2) 現地研修 (スタンフォード大学 American Language & Culture: Silicon Valley)</p> <p>※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>1) 派遣先教育機関：スタンフォード大学</p> <p>2) 派遣日程：2022年8月～2022年9月(予定)</p> <p>3) 授業内容：スタンフォード大学の教員による英語授業及び研究指導、スタンフォードやサンフランシスコでの課外活動、シリコンバレーにある企業を訪問、非営利団体でのボランティア活動、社会問題に対する知識を深めるためのパネルセッションやワークショップに参加。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外の集中講義で学んだ成果についてレポート作成するとともに、プレゼンテーションを行います。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員</p> <p>5名程度(最少催行人数1名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。</p> <p>TOEIC (IP 含む) 550点、TOEFL iBT 55点、TOEFL ITP 490点、IELTS 5.5以上</p> <p>※9月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はなし(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約120万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p> <p>(4) 対象</p> <p>将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院(特に英語圏)への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とする。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著(新潮社、2013年)</p> <p>『Ten Tips for Better Business writing』</p> <p>http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html</p> <p>『BBC Learning English』</p> <p>http://www.bbc.co.uk/learningenglish</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価をおこないます。</p> <p>(1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%)</p> <p>(2) スタンフォード大学による評価 (70%)</p> <p>(3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%)</p> <p>(4) 帰国後に提出するレポート (10%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>・宿舎は、スタンフォード大学学生寮の予定。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止する可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (ペンシルベニア大学 Institute for Academic and Professional Studies (IAPS))	1～4年	夏期集中	2単位	その他	三牧 純子
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary)>> 本講座は、アメリカ合衆国・ペンシルベニア大学 English Language Program (Penn ELP) が留学生向けに提供する4週間のプログラムである。語学レベル別に開講されるコアコースに加え、選択コース群の中から、各自が興味のあるクラスを2つ選び受講する。 コアコースでは、米国の移民やフィラデルフィアの歴史、文化的多様性に焦点をあてた授業をとおして、米国の大学正規過程で授業を受けるために必要なアカデミック英語のスキル向上を目指す。 選択コースでは、全レベル対応コースおよび、Pre-Intermediate から Advanced レベルそれぞれに対応したコースがある。コースの詳細は、ウェブサイトを確認すること。 課外活動も充実しており、ペンシルベニア大学で教鞭をとる教員によるゲストレクチャーを受講する他、フィラデルフィア市内の歴史的な名所や現代美術館なども予定されている。 海外での学習効果を高めるため、海外での集中講義の前後に、事前・事後学習を行う。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学ぶ。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認する。 このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【テーマ探究型】であり、特定のテーマについて、グローバルな視点でより広く認識し、国際社会への理解を深めることを目標とする。 <<到達目標 (Course Objectives)>> 米国の多民族国家、多文化社会の現状を学ぶことを通じて、異なる文化・価値観を尊重する基本的姿勢を獲得する。特定の課題について、グローバルな視点でより深く認識できるようになる。					
2 授業内容 (Course Contents) ※日程・実施場所等は募集要項を確認すること。 (1) 事前学習 国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学ぶ。また、英文レポートの書き方の基本を学ぶ。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確化する。 (2) 現地研修 (ペンシルベニア大学 Institute for Academic and Professional Studies) 1) 派遣先研修期間：ペンシルベニア大学 2) 派遣日程：2023年2月上旬～2023年3月上旬 (予定) 3) 学習内容：コアコースと選択科目群から2コースを受講。 (3) 事後学習 海外の集中講義で学んだ成果を、レポートに作成するとともに、プレゼンテーションを行う。					

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 受講定員： 15名程度 (最少催行人数10名) ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (2) 履修要件： 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 (以下は2021年度の要件となるため最新の情報は募集要項を確認すること)。 TOEIC (IP 含む) 400点、TOEFL iBT 40点、TOEFL ITP 435点、IELTS 5.0以上 3月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はない。(本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用： 短期研修参加費として約62万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。 (4) 対象： 将来国際的なビジネス環境で働くことに関心のある学生、長期留学 (特に米国) を目指す学生や将来海外の大学院進学 (特に米国) を目指す学生を履修対象とする。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。 また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013年) 『日本人の知らない ワンランク上のビジネス英語術』ウィリアム・A・ヴァンス 著 (神田房枝監訳) (CCC メディアハウス、2013年) 『一流は、なぜシンプルな英単語で話すのか』柴田真一 著 (青春出版社、2016年) 『Ten Tips for Better Business Writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%) (2) ペンシルベニア大学による評価 (70%) (3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%) (4) 帰国後に提出するレポート (10%)
8 その他 (Other) ・宿舎は、ペンシルベニア大学が指定する学生寮の予定。 ・当該コースの Penn ELP ウェブサイトは以下の通り。 https://www.elp.upenn.edu/iaps https://www.elp.upenn.edu/institute-academic-studies/courses ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性あり。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 ケンブリッジ大学（コーパス・クリスティ・カレッジ異文化理解プログラム）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジが明治大学の学生向けにカリキュラムを設計したプログラムです。経験豊富な講師陣によるユニークな専門科目授業（セミナー）を受講することができます。また、英語授業では、海外の大学（特に英語圏）で学ぶために必要な、アカデミックイングリッシュを、リサーチプロジェクトなどを通して実践的に学びます。</p> <p>授業・課外活動などプログラム全体にアクティブ・ラーニングアプローチを積極的に取り入れており、視察やリサーチプロジェクトなどを通し、現地の人々と交流することで、実践的英語力の向上及びイギリス社会・文化に対する理解力強化を図ります。</p> <p>海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外留学が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。</p> <p>このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【テーマ探究型】であり、特定のテーマについて、グローバルな視点でより広く認識し、国際社会への理解を深めることを目指しています。</p> <p>到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外留学について理解し、より長期の留学に必要な素養を養う。 ・英語でのコミュニケーション力を強化する。 					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>※日程・実施場所等は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) 事前学習 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。</p> <p>(2) 現地研修（ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ異文化理解プログラム）※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>1) 派遣先教育機関：ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ 2) 派遣日程：2022年8月～2022年9月（予定） 3) 授業内容：専門科目授業（セミナー）及び英語学習（アカデミックイングリッシュ） セミナーは「ジャーナリズムとイギリスの現代事情（Journalism and Current Affairs in the UK）」、「イギリスの芸術と建築（Art and Architecture）」「ケンブリッジにおける科学（Science in Cambridge）」の3つのコースから2コースを選択する。</p> <p>(3) 事後学習 事後学習では、グループプレゼンテーション形式による、成果発表を行います。</p>					

<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 受講定員 16 名程度（最少催行人数 10 名） ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する）。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。</p> <p>(2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP 含む) 550 点、TOEFL iBT 60 点、TOEFL ITP 490 点、IELTS 5.0 以上 なお、これらの語学スコアを取得していない学生については、担当教員が面談を行い、語学力を測定します。 9 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約 80 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p> <p>(4) 対象 将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院（特に英語圏）への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とする。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。 また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著（新潮社、2013 年） 『Ten Tips for Better Business writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html 『BBC Learning English』 http://www.bbc.co.uk/learningenglish</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価をおこないます。</p> <p>(1) 事前学習への参加と授業への貢献度（10%） (2) ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジによる評価（70%） (3) 事後学習におけるプレゼンテーション（10%） (4) 帰国後に提出するレポート（10%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿舎は、ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジが指定する学生寮の予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性あり。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学	1～4年	夏期・秋学期 集中	2単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ワシントン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>＜概要（Course Summary）＞</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習においては、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修では、ワシントン大学（アメリカ）にて実施される3週間の「Short Term English Program (STEP) Language & Culture」コースに参加し、アメリカ文化を学びながら実用的な英語のコミュニケーション能力を高める。特に発音や語彙力の向上が期待できる他、午後の課外活動では実際に使える日常的な英語表現を学ぶ。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>＜到達目標（Course Objectives）＞</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地派遣</p> <p>日程：2023年2月上旬～下旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>「STEP Language & Culture」コースでは、プログラム冒頭に行われるプレースメントテストに応じて、自身の英語力にあったクラスに参加する。クラスレベルは初級～上級に分かれており、1クラス14～18名の少人数制クラスとなる。午前中（3時間）は教室で学び、午後はクラスメイトと一緒にフィールドトリップやアクティビティなどの課外活動に参加する。映画や社会見学などを通じてアメリカ文化にも触れながら、実用的な英語を学ぶ。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員</p> <p>25名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>日常会話程度の語学力があること。3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約50万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』 エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （アデレード大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習においては、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修では、アデレード大学（オーストラリア）の英語研修機関 English Language Centre（ELC）にて実施される5週間の「General English for Academic Purpose（GEAP）」コースに参加する。海外大学の学部・大学院レベルの授業を受けるために必要な英語力を養うための入門プログラムであり、大学生として必要な基本的な英語力を高めることができる。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日時・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修</p> <p>2023年2月上旬～3月中旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>参加者は、1日4時間英語クラスを受講する。月曜日～木曜日のクラスでは、会話・リスニング・読解・筆記・文法および語彙の向上に焦点を当てた内容を学び、ペアワーク・ロールプレイ・ディスカッションなどを通じて理解を深める。金曜日のクラスでは、TOEFL iBT や IELTS 等のテスト準備、オーストラリアの社会事情、ビジネス英語など、特に伸ばしたい技能や興味のある分野を選択して学ぶことができる。また、オーディオ教材などを使用し、英語だけでなくオーストラリアの文化や社会への理解を深めることができる。</p> <p>(3) 事後学習 ※日時・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 25名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約56万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ユーコン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>＜概要（Course Summary）＞</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習においては、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修は、ユーコン大学（カナダ）によって本学の学生のために特別に組まれたプログラムであり、英語運用能力向上を図るとともにカナダの生活や文化に関する理解を深めることを目的としたプログラムである。研修2週目以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health（予定）のうち1つを選択）を聴講する。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>＜到達目標（Course Objectives）＞</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修</p> <p>2023年2月上旬～3月上旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>実践的な英語力を身につけることを目標とするため、特に日常英会話とコミュニケーションの向上に重点を置いた授業を受講する。なお、英語の授業は第2外国語としての英語教授法の資格を持つユーコン大学の講師が担当する。また、研修2週目以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health のうち1つを選択の予定）を聴講する。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員</p> <p>15名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>日常会話程度の語学力があること。</p> <p>3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約52万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』 エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを3実施予定。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ブリティッシュ・コロンビア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習においては、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修は、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Institute (ELI) にて実施される4週間の Global Citizenship through English (GCE) である。GCE コースでは、カナダの市民社会、国際性、持続可能性に関するテーマについて学びながら、スピーキング力と流暢さが向上することが期待される。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修</p> <p>2023年2月下旬～3月下旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>1週間当たりの授業時間数は約25.5時間となる。午前の授業では、より専門的な語学力養成のためのテーマに沿った授業（Cross-Cultural Communication, Canadian Society 等）が行われ、午後の授業では、グループプロジェクトやプレゼンテーションが中心の授業を受講する。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員</p> <p>20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>日常会話程度の語学力があること。</p> <p>3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約55万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止する可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ビクトリア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習においては、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修では、ビクトリア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Centre（ELC）にて実施される4週間の Monthly English に参加する。Monthly English プログラムでは、月曜日から木曜日までは他国からの留学生と共に英語を学び、金曜日や週末に様々なアクティビティに参加し、実践的な英語能力を向上させることを目的としている。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留學生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修 2023年2月下旬～3月下旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>文法やリスニングだけに時間を費やすのではなく、総合的な英語スキルを学習する「コミュニケーションアプローチ（Communicative Approach）」という言語学習/教授法が取り入れられた授業を受講する。ロールプレイを通して、英語コミュニケーションの練習をするなど、学生がクラスを中心となりアクティビティやディスカッションに積極的に参加することが求められる。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約49万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止する可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （オークランド大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>＜概要（Course Summary）＞</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を通じ、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、語学力向上や異文化理解を促進するための準備学習を行う。</p> <p>現地研修は、オークランド大学（ニュージーランド）の英語研修機関 English Language Academy (ELA) にて実施される4週間の General English コースである。General English コースでは、日常生活に必要な英語力を伸ばしたい学生やアカデミック英語コースへ進むための準備が必要な学生のためのプログラムである。</p> <p>事後学習においては、現地研修で得た学びを振り返り、異文化適応力のさらなる向上をはかる。</p> <p>＜到達目標（Course Objectives）＞</p> <p>参加者は、母語以外の言語環境での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修</p> <p>日程：2023年2月上旬～3月中旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>プレースメントテストで、Elementary, Pre-Intermediate, Intermediate, Upper-Intermediate, Advanced の5段階のクラスに分かれ、週20時間の英語クラスを受講する。1日4時間の英語クラスでは、2時間のコアクラスと2時間の選択クラス（Communication Skills, English for IELTS または Business English などクラスレベルにより異なる）で構成されている。英語クラスでは、ペアワーク、グループワークなどを通して、リスニング、リーディングスキルのほか、ライティングとスピーキングにおける語彙、流暢性、正確性について総合的に学ぶことができる。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約53万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p> <p>『異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』 エリン・メイヤー（英治出版）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止する可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>≪概要（Course Summary）≫</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間+レベル別グループレッスン4時間=8時間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化適応力の涵養も目指す。</p> <p>≪到達目標（Course Objectives）≫</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学のための準備や心構え、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修 日程：2022年8月上旬～8月下旬・3週間（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 マンツーマンレッスン：ブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、英語発話力を向上させる。 グループレッスン：レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは、様々なトピックについてディスカッションやプレゼンテーションに取り組む。Field Workでは、現地の人々と対話し、英語発信力と異文化適応力を養成する。Public Speakingでは、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを身に付ける。 異文化理解：College Sit-inでは、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、「英語で」勉学する疑似体験を得る。Mixer Nightでは現地学生との交流を図り、週末のField Tripでは異文化理解を深める。 学習定着度診断：毎週金曜日に、1週間の学習到達度を測るWeekly Assessmentが実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習到達度を測るSummative Assessmentが実施され、その結果は個人のProgress Reportに反映される。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 本プログラムは渡航前にCEFR A2レベル（TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）の英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1レベル（TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150）の学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Testをプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。 ・TOEIC® Speaking Testについて http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>					

<p>(4) 短期研修参加費として約28万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。 4. プログラム修了後もオンラインレッスンや自学自習で発話力を維持すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>エンデラン大学が配布するテキスト</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ <p>【フィリピン共和国 Republic of the Philippines（外務省ホームページ）】 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>【TOEIC® Speaking Testについて】 http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Wordファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 2. 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>≪概要（Course Summary）≫</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間+レベル別グループレッスン4時間=8時間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化適応力の涵養も目指す。</p> <p>≪到達目標（Course Objectives）≫</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルは CEFR A2 レベル（すでに B1 レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後に B1 レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学のための準備や心構え、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後 72 時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修 日程：2023年2月上旬～2月下旬・3週間（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 マンツーマンレッスン：ブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Building では、発音と語彙力を鍛える。Chatter Box では、様々なトピックについて担当講師と会話をし、英語発話力を向上させる。 グループレッスン：レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational English では、様々なトピックについてディスカッションやプレゼンテーションに取り組む。Field Work では、現地の人々と対話し、英語発信力と異文化適応力を養成する。Public Speaking では、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを身に付ける。 異文化理解：College Sit-in では、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、「英語で」勉学する疑似体験を得る。Mixer Night では現地学生との交流を図り、週末の Field Trip では異文化理解を深める。 学習定着度診断：毎週金曜日に、1週間の学習到達度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習到達度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は個人の Progress Report に反映される。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後 72 時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 本プログラムは渡航前に CEFR A2 レベル（TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）の英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 レベル（TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150）の学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>・ TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>					

<p>(4) 短期研修参加費として約 28 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。 4. プログラム修了後もオンラインレッスンや自学自習で発話力を維持すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>エンデラン大学が配布するテキスト</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ <p>【フィリピン共和国 Republic of the Philippines（外務省ホームページ）】 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>【TOEIC® Speaking Test について】 http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800 字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800 字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 2. 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>≪概要（Course Summary）≫</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短時間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間+レベル別グループレッスン4時間＝8時間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化適応力の涵養も目指す。</p> <p>≪到達目標（Course Objectives）≫</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p> <p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学のための準備や心構え、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修 日程：2022年8月上旬～9月中旬・6週間（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 マンツーマンレッスン：ブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、英語発話力を向上させる。 グループレッスン：レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは、様々なトピックについてディスカッションやプレゼンテーションに取り組む。Field Workでは、現地の人々と対話し、英語発信力と異文化適応力を養成する。Public Speakingでは、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを身に付ける。 異文化理解：College Sit-inでは、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、「英語で」勉学する疑似体験を得る。Mixer Nightでは現地学生との交流を図り、週末のField Tripでは異文化理解を深める。 学習定着度診断：毎週金曜日に、1週間の学習到達度を測るWeekly Assessmentが実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習到達度を測るSummative Assessmentが実施され、その結果は個人のProgress Reportに反映される。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p> <p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 本プログラムは渡航前にCEFR A2レベル（TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）の英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1レベル（TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150）の学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Testをプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>・ TOEIC® Speaking Testについて http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>					

<p>(4) 短期研修参加費として約46万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。 4. プログラム修了後もオンラインレッスンや自学自習で発話力を維持すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>エンデラン大学が配布するテキスト</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・ Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・ TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・ News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・ CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・ BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ <p>【フィリピン共和国 Republic of the Philippines（外務省ホームページ）】 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>【TOEIC® Speaking Testについて】 http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 2. 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>≪概要（Course Summary）≫</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短時間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間+レベル別グループレッスン4時間=8時間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化適応力の涵養も目指す。</p> <p>≪到達目標（Course Objectives）≫</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学のための準備や心構え、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。また、留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。事前学習終了後72時間以内に、事前課題をオンライン提出する。</p> <p>(2) 現地研修 日程：2023年2月上旬～3月中旬・6週間（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。マンツーマンレッスン：ブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、英語発話力を向上させる。 グループレッスン：レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは、様々なトピックについてディスカッションやプレゼンテーションに取り組む。Field Workでは、現地の人々と対話し、英語発信力と異文化適応力を養成する。Public Speakingでは、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを身に付ける。 異文化理解：College Sit-inでは、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、「英語で」勉学する疑似体験を得る。Mixer Nightでは現地学生との交流を図り、週末のField Tripでは異文化理解を深める。 学習定着度診断：毎週金曜日に、1週間の学習到達度を測るWeekly Assessmentが実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習到達度を測るSummative Assessmentが実施され、その結果は個人のProgress Reportに反映される。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外留学の成果を最大化するため、各自が帰国後の振り返りを行う。事後学習終了後72時間以内に、事後課題をオンライン提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 本プログラムは渡航前にCEFR A2レベル（TOEIC L & R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）の英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1レベル（TOEIC L & R 550～780, TOEIC Speaking 120～150）の学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Testをプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>・TOEIC® Speaking Testについて http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>					

<p>(4) 短期研修参加費として約46万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣先について自主的に調べること。 2. 必要に応じて講義スライドや参考書を参照すること。 3. 渡航直前までリスニングスキルの向上を心がけること。 4. プログラム修了後もオンラインレッスンや自学自習で発話力を維持すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>エンデラン大学が配布するテキスト</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ <p>【フィリピン共和国 Republic of the Philippines（外務省ホームページ）】 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>【TOEIC® Speaking Test について】 http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前課題（10%） 「現地研修を通じて学びたいこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800字以上、書式自由 (2) 派遣先教育機関における評価（80%） (3) 事後課題（10%） 「現地研修を通じて学んだこと」をテーマにした日本語によるエッセイ ※Word ファイル、800字以上、書式自由
<p>8 その他（Other）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 2. 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止の可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ペンシルベニア大学 ELP）	1～4 年	秋学期 集中	2 単位	和泉	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>≪概要（Course Summary）≫</p> <p>本講座は、海外トップユニバーシティであるペンシルベニア大学 English Language Program Programs から講師を招聘し、英語圏への留学に対応できる英語能力を短期集中で養成するプログラムである。授業時間は 110 分×2 コマ+セルフスタディ 1 時間=約 5 時間×週 5 日×3 週間（予定）で、1 クラス 12～16 人の少人数制で行う。日本にいながらオールイングリッシュでアカデミック英語の指導を受けることで、「聞く・読む・話す・書く」スキルの統合的な向上を狙いとする。</p> <p>≪到達目標（Course Objectives）≫</p> <p>英語での勉学に必要な「聞く・読む・話す・書く」の 4 技能を統合的に身に付けることを、本講座の主な目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前講義 ※開講日時・実施場所は募集要項にて確認すること。 オールイングリッシュで行われる授業に対応するための心構えを会得する。</p> <p>(2) 語学研修 日程：2023 年 2 月中旬～3 月中旬（予定） ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 ・ Academic Reading & Writing：ペンシルベニア大学オリジナル教材で、「読む・書く」スキルを中心に「聞く・話す」スキルも合わせた 4 技能を統合的に養成する。 ・ Elective Courses：以下の 6 講座から、明治大学が受講者の専攻を考慮の上、指定する講座が開講される（過年度開講実績科目：A ならびに C）。 A: Communications and Social Media B: Innovation and Technology C: Leadership D: Marketing and Gamification E: Resiliency F: Sustainability なお上記クラスでは、リーディングおよびライティング課題、フィールドワーク、個人およびグループ単位でのプレゼンテーションが適宜課される。 ・ Self-Study（授業終了後 60 分間）：その日に課された課題や授業内容の復習・定着のための自習時間。</p> <p>(3) 事後講義 ※最終授業終了後 講座での学びを振り返り、今後の英語学習における目標を設定する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 履修要件：プログラム応募時までに、2020 年 12 月以降取得した英語能力試験スコアが、募集要項に示される基準のいずれかに達していること。 ※基準スコアを有しない場合、別途ペンシルベニア大学が指定するオンラインテストを受験し、一定基準を超える必要がある。</p> <p>(2) 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 英語力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、各種英語能力試験をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを勧める。 ・ TOEIC® Speaking & Writing Tests について（IBC ホームページ） http://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about.html ・ TOEFL iBT について（ETS Japan ホームページ） https://www.etsjapan.jp/ ・ IELTS について（JSAF ホームページ） https://jsaf-ieltsjapan.com/</p> <p>(4) プログラム参加費などの詳細は、募集要項を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html</p>					
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要に応じてアカデミックライティングの基礎知識を身に付けておくこと。 プログラム開始直前までリスニングスキルの向上を心がけること。 プログラム修了後もオンラインレッスンや英語能力試験の受験を通じて英語力を維持すること。 					

5 教科書（Textbook） ペンシルベニア大学が配布する教材
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>【リスニングスキル向上のための推奨ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ CNN 10（10 分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ <p>【ライティングスキル向上のための推奨ウェブサイト（オンライン講座は受講料無料）】</p> <ul style="list-style-type: none"> A Beginner’s Guide to Writing in English for University Study（University of Reading） https://www.futurelearn.com/courses/english-for-study Getting Started with Essay Writing（University of California, Irvine） https://www.coursera.org/learn/getting-started-with-essay-writing?specialization=academic-english Cambridge English Write & Improve https://writeandimprove.com/(Cambridge English) <p>【英文アカデミック・ライティングの参考文献】</p> <p>『英語アカデミック・ライティングの基礎』一橋大学英語科 編著（研究社） 『英語論文の書き方入門』迫 桂、徳永聡子 著（慶応義塾大学出版会） 『The Elements of Style』William Strunk Jr. and E.B. Write（A Pearson Education Company） 『Concise Rules of APA Style』（American Psychological Association） 『ETS 公認トレーナーと勉強しよう！TOEFL iBT® テスト Web 準備講座学習者が書いたエッセイを、添削・アドバイスする「ウェブ公開授業」』 https://www.cieej.or.jp/toefl/webmagazine/ibt-class/</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>成績評価基準は以下の通り：</p> <p>(1) 事前課題（10%） 「講座を通じて学びたいこと」をテーマにした英語によるエッセイ ※Word ファイル、400 ワード以上、書式自由</p> <p>(2) ペンシルベニア大学による評価（80%）</p> <p>(3) 事後課題（10%） 「講座を通じて学んだこと」をテーマにした英語によるエッセイ ※Word ファイル、400 ワード以上、書式自由</p>
<p>8 その他（Other）</p> <ol style="list-style-type: none"> 最少催行人数（12 名）に満たなかった場合、プログラムを催行しない可能性がある。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止する可能性がある。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（ドイツ語） （ウィーン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、ウィーン大学（オーストリア）で実施されるドイツ語コースに4週間参加するプログラムである。研修初日のプレースメントテストの結果に応じて各学生のレベルに合ったクラスに参加することができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行う。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なドイツ語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2022年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>授業は全てドイツ語で行われ、少人数での参加型授業であり、教員と学生の距離が近い環境でドイツ語を身につけることができる。午前中（9：15～12：00）の授業終了後、語学力をさらに磨きたい学生は、ドイツ語会話、発音、合唱、ワルツなどの豊富なオプションクラス（有料）を受講することも可能である。</p> <p>(3) 事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約43万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先について事前に調べておくこと。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>現地研修について、以下の点に留意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（フランス語） （リヨンカトリック大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、リヨン・カトリック大学（フランス）付属語学学校（ILCF）で開講される4週間のプログラムである。授業は少人数制で行われ、フランス語の読み書きばかりではなく、実践的な会話も十分に実践できる。ILCF主催の課外活動は、授業の一環として行われる地域文化研修であり、この地域の文化を理解するとともに、他国からの学生と交流を図りながらフランス語を磨くことができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行う。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2022年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>授業はA1（入門）、A2（初級）、B1（中級1）、B2（中級2）、C1（上級1）、C2（上級2）の6段階にクラスが分かれており、各学生のレベルに合わせて参加する。授業時間は週20時間、月・火・木・金の午前9時～12時、午後14時～16時である。（授業時間はレベルにより異なる。）</p> <p>(3) 事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 15名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約49万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先について事前に調べておくこと。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある）。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>現地研修について、以下の点に留意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（スペイン語） （バルセロナ自治大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、バルセロナ自治大学（スペイン）の語学研修機関 UAB Idiomes Barcelona にて実施される4週間の集中スペイン語コースである。UAB のスペイン語クラスは、短期間で効率的かつ実践的にスペイン語を習得するコースとなる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行う。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なスペイン語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2023年2月上旬～3月上旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>授業時間は、月曜日から金曜日までの午前9時から午後1時30分の4時間であり、週20時間となる。少人数制のクラスであり、9段階のレベルにクラスが分かれ、各学生のレベルに合ったクラスでスペイン語を学ぶ。中級以上のレベルの受講者は、午後の授業と併せて、スペイン文化や経済等に関する授業を受講することができる。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約40万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>現地研修について、以下の点に留意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（中国語） （北京大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、北京大学（中国）にて、中国語運用能力の向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的としたプログラムである。中国語のブラッシュアップを図るとともに、語学以外に名所旧跡へのフィールドトリップや現地学生との交流など、中国文化に対する理解をさらに深めることができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行う。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な中国語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2023年2月下旬～3月下旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>各レベルにクラスが分かれ、授業は午前8時から12時までであり、「口語」「漢語」を中心に学ぶことができる。課外活動では、留学生交歓会が設定され、その他、中国に関する文化講座（「日中漢字の異同」（日本語）、「中国古代美術」（英語）予定）や万里の長城・盧溝橋等へのフィールドトリップなどに参加する。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約40万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ（https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html）にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>現地研修について、以下の点に留意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期留学（語学）	1～4年	夏期・秋学期 集中	1単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約2週間以上（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学（語学）	1～4年	夏期・秋学期 集中	2単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間（実学習時間が2700分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めなし。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期国際協力フィールドワーク (国内)	1～4年	春・木・4	1単位	和泉	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p><概要> 本講義は、グローバル人材育成プログラム科目の一つであり、国際協力の取り組みの国内での現場を学期中に訪問することにより、将来、グローバルな舞台で活躍するために必要な知識や資質について学ぶことを目的としている。</p> <p>講義はフィールドワーク前の事前学習、国際協力の現場への短期フィールドワーク（訪問先の都合にあわせて半日を2回、学期中に実施予定）、現場で得た知識や気付きのまとめと共有の三部によって実施する。フィールドワーク先は、独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）を予定している。</p> <p><到達目標> 本講義を通じて国際協力の具体的な展開に関する知識とともに、国際協力を携わる人材に必要な能力や資質への理解を深めるとともに、今後の学習や留学等へのモチベーションを高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>第1講：イントロダクション 第2講：事前学習 第3講：事前学習 第4講：事前学習 第5講：事前学習 第6講：事前学習 第7講：現地調査 第8講：現地調査 第9講：現地調査 第10講：現地調査 第11講：報告まとめ 第12講：報告まとめ 第13講：報告まとめ 第14講：報告会</p> <p>*フィールドワークの日時は第1講の授業の際に説明します。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>フィールド実習には必ず参加すること。履修者数の上限は15名とし、先着順とする。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>準備学習として、事前に配布する論文・文献を読んでから講義に臨むこと。フィールド実習を2回に分けて行実施するので必ず参加しレポートを作成すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に指定なし</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>荒木光弥（2020）『国際協力の戦後史』東洋経済新報社 国際開発ジャーナル社編（2020）『国際協力キャリアガイド 2020-21：世界をアップデートしよう』 小沼廣幸（1997）『めざせ、世界のフィールドを一国際公務員の仕事』岩波ジュニア新書 米坂浩昭（2000）『裏道国際派』新潮社</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>この授業は、グループワークによる実践形式の授業であることから、日々の授業への取り組みを重視し、授業内でのディスカッションとプレゼンテーション（60%）、個人期末レポート（40%）で評価を行います。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>履修者数の上限は15名とし、先着順とする。</p> <p>そのため履修登録を行っても人数制限の関係で履修が認められないことがある。必ず時間割公開後の時間割に当該科目が記載されているか確認をすること。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (タイ・ボランティア)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となることを目的としている。</p> <p>タイ北部のチェンライを中心に山岳民族（アカ族など）の村及びこれを支援する NGO の拠点に滞在し、約 2 週間のボランティア活動を行い、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。</p> <p>また、現地では、世界各国から集う他の参加者に交じり、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。さらに英語以外に、簡単なタイ語、山岳民族の言語、ジェスチャー、日本語などを交えて意思疎通を図る。</p> <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【ボランティア実習 (約 2 週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>タイ北部の山岳民族（アカ族など）の村などで活動する NGO 等において、下記分野を例とした業務に約 2 週間従事する。</p> <p>2023 年 2 月中旬～2023 年 2 月下旬実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> —山岳民族支援プロジェクトの手伝い —村のコミュニティホールの建設や修繕 —太陽電池設備の設置、学校での手洗い場やトイレの建設 —学校や村のコミュニティでの日本語・日本文化紹介 など <p>※宿泊先施設の設備は、男女別滞在、シャワー（水）、トイレ（手動洗浄）である。</p> <p>※現地での滞在先は受入団体が用意する宿泊施設またはホームステイである。</p> <p>【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p> <p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>20 名 (最少派遣人数 10 名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修の条件とする。</p> <p>なお、TOEIC 等のスコアを保持していない場合は、語学力のヒアリングにより十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可することがある。</p> <p>3 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p>					

<p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約 29 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p> <p>(4) その他</p> <p>必修ではないが、「東南アジア理解講座 (タイの言語と文化)」を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>留学の成果は事前準備で決まるので、下記「6 参考書」の内、最低 1 冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための 60 章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店、2003)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫 (講談社現代新書、2017)</p> <p>『物語 タイの歴史：微笑みの国の真実』柿崎一郎 (中公新書、2007)</p> <p>『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行 (岩波新書、1982)</p> <p>『消費大陸アジア：巨大市場を読み解く』川端基夫 (講談社現代新書、2017)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) ボランティア先における勤務評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め、在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業、NGO、国際機関などで活躍することを期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (Cross-Cultural Camp (台湾))	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わず世界各地との関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本と世界の懸け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、台湾において実施されているプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が日本とは異なる環境で異文化理解を深め、海外へ視野を広げることを目的としている。</p> <p>台湾中部の台中市において活動する社会的企業を拠点に滞在し、約1週間の農業体験及び現地小学校へ訪問しボランティア活動を行い、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。</p> <p>また、現地では、英語を共通のコミュニケーションツールとして、能動的にコミュニケーションを図ることまたは積極的に諸活動を行っていく姿勢を鍛錬していく。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前学習】(全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、異文化理解、異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。</p> <p>さらに、ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【ボランティア実習】(約1週間) ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>台湾中部の台中市において活動する社会的企業に拠点を置いて、下記に示した活動等を行う。</p> <p>2022年11月初旬(大学祭休講期間を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> —伝統的な台湾の農作業ボランティア —水耕農業活動の支援作業 —現地小学校での日本語・日本文化紹介 —木工品作成ワークショップなど <p>※宿泊先施設の設備は、共同部屋、男女別滞在、シャワー、トイレは完備である。</p> <p>※現地での滞在先は受入団体が用意する宿泊施設である。</p> <p>【事後学習】(全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 15名(最少派遣人数10名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 程度の英語力を有することを履修の目安とする。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約14万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>派遣先(台湾・台中)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著(角川マガジズ)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)</p> <p>『消費大陸アジア: 巨大市場を読み解く』川端基夫 著(講談社現代新書)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫 著(講談社現代新書)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) ボランティア先における評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>・本講義の受講をきっかけに世界への関心を高め、在学中に世界各国に対する理解と英語力を一層向上させて、在学中にその他の留学プログラムへの参加や学内における異文化交流活動への積極的な参加を期待する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (ベトナム・Study Tour)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わず世界各地との関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本と世界の架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、ベトナム FPT 大学が実施する多国籍間の異文化理解、海外での学習に対する意欲向上と英語コミュニケーション力向上を目的として行われる Study Tour を本学用にカスタマイズして行うものであり、実施するアクティビティへの参加を通じ、参加者が日本とは異なる環境で異文化理解を深め、海外へ視野を広げることを目的としている。</p> <p>ベトナム中部のダナンにおいて、FPT 大学に在学する学生との交流を通じた異文化理解及びベトナムの現地事情をテーマとした英語学習と合わせて、現地に進出する日系企業への訪問や歴史的都市へのツアーを通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。</p> <p>また、現地では、英語を共通のコミュニケーションツールとして、能動的にコミュニケーションを図ることまたは積極的に諸活動を行っていく姿勢を鍛錬していく。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、異文化理解、異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。</p> <p>さらに、現地企業訪問や国際交流イベントに参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【ボランティア実習 (約 1 週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>ベトナム中部のダナンにある FPT 大学に拠点をおいて、下記に示した活動等を行う。</p> <p>2022 年 11 月初旬 (大学祭休講期間を予定)。</p> <p>—FPT 大学における英語クラス (歴史、ビジネス、食文化等現地事情をテーマとして)</p> <p>—ダナン及びホイアンツアー</p> <p>—現地企業訪問 (日系企業を予定)</p> <p>—ベトナムクッキングワークショップ など</p> <p>※宿泊先施設の設備は、2 名 1 室、男女別滞在、シャワー、トイレは完備である。</p> <p>※現地での滞在先は受入団体が用意する学生寮である。</p> <p>【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>15 名 (最少派遣人数 10 名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 程度の英語力を有することを履修の目安とする。</p>					

<p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約 17 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に派遣先 (ベトナム・ダナン、ホイアン) について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『消費大陸アジア：巨大市場を読み解く』川端基夫 著 (講談社現代新書)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫 著 (講談社現代新書)</p> <p>『現代ベトナムを知るための 60 章【第 2 版】』(明石書店、2012)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) ボランティア先における評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけに世界への関心を高め、在学中に世界各国に対する理解と英語力を一層向上させて、在学中にその他の留学プログラムへの参加や学内における異文化交流活動への積極的な参加を期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (Exploring Social Innovation)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>本講座は、米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia https://viaprograms.org/) が提供する社会イノベーションをテーマとしたプログラムである。VIA はアジアとアメリカを繋ぐことを目的とした多彩な体験型教育プログラムを運営する 1963 年に設立された非営利団体である。</p> <p>本研修では、スタンフォード大学デザインスクール (d.school) が提唱するデザイン思考を体系的に学ぶワークショップを始め、サンフランシスコ近郊の民間企業 (YouTube) や NPO 団体 (BAYCAT、Delancey Street Foundation 等) への視察訪問等が予定されている。</p> <p>なお、プログラム内容や訪問先は実施時期により一部変更となる可能性あり。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>デザイン思考を学び、様々な社会的企業の役割や活動を理解することで、より良い社会を築き、社会問題の解決に導くための実践的方法論を体得することを目指す。更に、その後の学習やキャリアの方向性を見定め、他者貢献力や自己成長への意欲を高めることに繋げる。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全 2 回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、アメリカや日本における社会問題の調査、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。また、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>※別途、VIA が定めるオリエンテーション (Zoom) への参加や事前課題の実施が求められる。</p> <p>(2) 現地研修 2023 年 2 月上旬～2 月中旬 (予定) ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>現地での研修はサンフランシスコ市内にて実施され、全体の学修活動時間は約 64 時間 (約 2 週間) である。</p> <p>スタンフォード大学 d.school が提唱するデザイン思考、社会問題を解決するための実践的方法論を学ぶためのワークショップ、サンフランシスコ近郊の民間企業や NPO 団体への視察訪問等が含まれる。</p> <p>(3) 事後学習 (全 1 回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。</p> <p>(1) 定員</p> <p>5 名 (最少催行人数 1 名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、申込み時に提出する参加理由書により選考する (選考結果は Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有すること。</p> <p>3 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約 47 万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>(4) その他</p> <p>・本プログラムは、少人数でのグループ発表や参加者間での意見交換が多く発生するため、プログラム参加に対する強い熱意と意欲、そして主体的に参加することが求められる。</p> <p>・本プログラムへの参加は本学での申込み後、現地プログラムディレクターによる電話インタビュー (Skype 面談) によって、最終的な参加可否が決定される。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ)</p> <p>『発想する社会！—世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法—』トム・ケリー 著 (早川書房)</p> <p>『なぜデザインが必要なのか—世界を変えるイノベーションの最前線—』エレン・ラプトン 著 (英治出版)</p> <p>『若者が社会を動かすために』税所篤快 著 (ベストセラーズ)</p> <p>『Creative confidence: Unleashing the creative potential within us all』Kelley, T., & Kelley, D. 著 (Crown Business, 2013)</p> <p>Tim Brown. (n.d.). from https://www.ted.com/speakers/tim_brown (TED Talk)</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 研修先 (VIA) による評価：70%</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポート：10%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) 本プログラムは、社会問題の解決に興味のある学生、社会起業家を目指す学生、デザイン思考に興味のある学生、新しい視点を学びたい学生、国連ユースボランティア等の長期海外インターンシップへの参加を目指す学生、長期留学参加後の学びを深めたい学生などを履修対象とする。</p> <p>(2) 現地研修では、日本、韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム等のアジアから優秀な学生が毎年参加している。研修期間中の宿舎は、VIA が指定するサンフランシスコ市内のホテルでの滞在となる。</p> <p>(3) 本プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期海外実習	1～4年	夏期・秋学期 集中	1単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約2週間以上（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定が中止される可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (タイ・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック

<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関、など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となるため、約4週間の国際協力インターンシップ(実務研修)を行うものである。</p> <p>タイの北部の都市であるチェンマイを中心に NGO 等の活動の中から参加者の専門や関心分野に沿って受入先を選定し、約4週間の実務研修を行う。</p> <p>また、現地では、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。</p>
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>事前学習は、インターンシップ活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【インターンシップ実習(約4週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>治安が良好なタイ北部の主要都市チェンマイ周辺で、各自の希望に基づいて、現地の NGO 等が行う下記分野における補佐的業務に約4週間従事する。</p> <p>2023年2月上旬～2023年3月上旬実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> —高齢化が進む村の復興支援活動 —環境の維持・保全に関する活動 —インターナショナルスクールや幼稚園での英語教育 —有名リゾートホテルでのゲストサービス —タイ王国動物園機構運営施設の広報活動など <p>※現地での滞在先は民間寮または受入先が手配する宿泊施設を予定。</p> <p>【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p>

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 定員は特に定めない(最少派遣人数1名)</p> <p>(2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修の条件とする。 なお、TOEIC 等のスコアを保持していない場合は、語学力のヒアリングにより十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可することがある。(希望するインターン先との間で、Skype 等により事前面接が実施される場合がある)。 3月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p>
--

<p>(3) 費用 短期研修参加費として約40万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p> <p>(4) その他 必修ではないが、「東南アジア理解講座(タイの言語と文化)」を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>留学の成果は事前準備で決まるので、下記「6 参考書」の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著(明石書店、2003)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫(講談社現代新書、2017)</p> <p>『物語 タイの歴史：微笑みの国の真実』柿崎一郎(中公新書、2007)</p> <p>『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行(岩波新書、1982)</p> <p>『消費大陸アジア：巨大市場を読み解く』川端基夫(講談社現代新書、2017)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) インターンシップ先における勤務評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め、在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業、NGO、国際機関などで活躍することを期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary)≫</p> <p>海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する実習プログラムとなる。ベトナム商業大学(予定)における学生交流をとおして両国のキャリア観についての学習を行った後に、ハノイの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合があります。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives)≫</p> <p>就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>(2) 現地実習 2022年8月中旬～9月中旬予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。</p> <p>ア 海外協力大学での学生交流(1日間)</p> <p>ベトナム商業大学(予定)における学生交流をとおして両国のキャリア観についての学習を行う。</p> <p>イ 企業実習</p> <p>ハノイ市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を行う。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>20名(最少催行人数10名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。</p> <p>9月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約35万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に派遣先(ハノイ)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』今井昭夫 他著(明石書店)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著(角川マガジズ)</p> <p>『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著(大和書房)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度:20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 勤務報告書:25%</p> <p>(3) 研修先における勤務評価:25%</p> <p>(4) 帰国後に提出する最終レポート:30%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ, ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary)≫</p> <p>海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する実習プログラムとなる。ホーチミン技術師範大学 (予定) における学生交流をとおして両国のキャリア観についての学習を行った後に、ホーチミンの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives)≫</p> <p>就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>(2) 現地実習 2023年2月中旬～3月中旬予定 ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>ア 海外協力大学での学生交流 (1日間)</p> <p>ホーチミン技術師範大学 (予定) における学生交流をとおして両国のキャリア観についての学習を行う。</p> <p>イ 企業実習</p> <p>ホーチミン市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を行う。</p> <p>(3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>20名 (最少催行人数10名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。</p> <p>3月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約35万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に派遣先 (ホーチミン) について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』今井昭夫 他著 (明石書店)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著 (大和書房)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 勤務報告書：25%</p> <p>(3) 研修先における勤務評価：25%</p> <p>(4) 帰国後に提出する最終レポート：30%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (オーストラリアインターンシップ)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>海外の大学での特別講座を受講した後に、海外の現地企業及び団体において、約4週間のインターンシップに従事する。</p> <p>本学協定校であるシドニー工科大学（豪州・シドニー）（予定）で現地の学生と交流した後に、シドニー市内の受入企業・団体で約4週間にわたる企業実習を行う。なお、現地企業・団体で企業実習のため、業務上使用する言語は原則として英語となる。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>海外でのインターンシップを通じて、「異文化に対する洞察力」、「実践的な専門知識」、「語学力」、「能動的コミュニケーション能力」といった素養を養うことを目的とし、グローバル人材として世界で活躍する人材の育成を目指す。また、4週間の実務実習を通じ、日本社会とは異なる人間関係の中に身を置くことにより、様々なバックグラウンドを持つ人々の文化と価値観の多様性を受け入れることの重要性を認識する。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習※日程・実施場所は募集要項を確認すること。</p> <p>海外実務研修のための準備や、ホームステイに対する心構え、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。ビジネス英語表現対策などを受講する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>また、Project-Based Learning (PBL) 学習（問題解決型学習）として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。</p> <p>課題1：オーストラリアの環境問題 課題2：オーストラリアの移民問題</p> <p>(2) 現地実習 2022年8月中旬～9月中旬予定 ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。</p> <p>1) 海外協定校での研修（1日間） シドニー工科大学（豪州・シドニー）（予定）の協力により実施される現地の学生との交流により、各自のキャリア意識を醸成する。</p> <p>2) 企業実習 シドニー市内の現地企業・団体（一般企業、観光関連、ホテル業、幼児教育、日本語教師アシスタント、福祉施設等）で約4週間にわたり実務実習を行う。実習先での業務内容は個人の英語力・スキルにより判断し決定される。</p> <p>(3) 事後学習（全1回）※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを担当教員に提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数6名）予定 ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する）。</p>					

<p>(2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 600点 (TOEFL iBT62点、TOEFL ITP503点、IELTS5.5、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。 9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約57万円程度の負担が必要。研修参加費は、為替等の影響により変動する可能性がある。研修参加費および内容詳細については、短期留学プログラムホームページ (https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html) にて、募集要項等を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook) 特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ) 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『英語で説明する日本の文化－これ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 勤務報告書：20% (3) 実務研修先における勤務評価：30% (4) 帰国後に提出する最終レポート：30%</p>
<p>8 その他 (Other) ・インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。インターンシップ申込書をもとに、現地の受入れ先の事情や条件、個々の英語力、経験、資格、履修経験を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。 ・プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性あり。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型海外実習	1～4年	夏期・秋学期 集中	2単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間以上（実学習時間が2700分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めなし。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定が中止される可能性があります。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	8単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習（実務実習）を行う講座であり、学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画（UNV: United Nations Volunteers）」を通じて、開発途上国における同機関事務所で実務実習を行うことにより、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>参加者は、開発途上国での様々な問題を改善するための多様なボランティア活動に従事し、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力とともに、業務に従事するための外国語コミュニケーション能力、交渉力、積極性、柔軟性、問題解決能力などのグローバル人材として必要な素養を養うことを目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>国連ボランティア計画（UNV）のコーディネートにより、約5ヵ月間、主に開発途上国の国連諸機関に派遣される。派遣先国はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国。</p> <p>具体的には、開発途上国の国連事務所、政府機関またはNGOなどが実習先となる。ウェブサイトやポスター作成などの広報活動やプロジェクト運営支援などを通じて、教育、保健衛生、環境、ジェンダー、貧困削減などの活動に携わる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度(週30時間程度)。現地での滞在先は、原則として、UNVの各現地オフィスが指定（推奨）する民間アパートである。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員 選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件 書類選考及び面接選考の上、学内推薦候補を決定する。 学内推薦候補者は、希望する国際機関の現地事務所担当者による選考を経て、派遣が決定する。なお、応募のために以下の要件を満たす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●派遣年度の9月1日時点で20歳以上26歳未満であること。 ●TOEFL ITP500点（TOEFL iBT61点、TOEIC 630点、IELTS 5.0）以上の英語力を有すること。 ●最低限のPCスキル（Word/Excel/Power Point）を有すること。 ●開発途上国の厳しい異文化環境において生活する上で心身ともに健康上の問題がないこと及び困難な状況に対応できること。 ●日本国籍を有する者。 ●本プログラムに係る全てのスケジュールに参加できる者。 ●開発途上国へ2週間以上の渡航経験（留学、在住）を持つことが望ましい。 ●ボランティア経験があることが望ましい。 ●本学の外国留学に関する広報活動及び本プログラムに係る各種調査等の協力で卒業後も含めて協力の同意ができること。 <p>なお、「海外実習課題研究（国連ユースボランティア・プログラム）」との同時履修となる。</p>					

<p>(3) 費用 渡航費や一定の現地生活費等を含む参加費用は、外務省及び国連ボランティア計画が負担するため、免除となる。 国内研修に係る費用、海外旅行保険、予防接種および出入国のために必要な費用は自己負担となる。</p> <p>(4) 派遣日程 2022年9月中旬～2023年2月（渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。） プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijisshu/index.htmlを必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、事前に配布する英語の報告書やレポートの書き方（表現・構成）の資料を熟読し理解すること。配布資料をもとに、毎週提出を義務付けている業務報告書を作成する。担当教員によるフィードバックを参考にし、表現や構成を振り返り、次週の業務報告書の作成に活かすこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 業務報告書 (Weekly Report) の評価：30%</p> <p>(2) 中間レポートの評価：20%</p> <p>(3) 最終レポート及びプレゼンテーション：50%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>派遣国については、治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムの一部または全ての期間をオンラインで活動することになる可能性がある。2022年度のプログラム実施に関しては、募集要項を確認すること。</p> <p>各派遣先で必要とされる語学やICTスキルなども必要に応じて習得すること。</p> <p>将来、国連をはじめとする国際機関でのキャリアを目指す人、身につけた英語を生かして業務経験を積みたい人、開発途上国での厳しい環境下でチャレンジしたい人の受講を期待します。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	4単位	その他	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary)▶</p> <p>本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、約10日間の補強研修及び渡航前研修を実施し、同プログラム期間中に必要となる画像・動画編集、英文議事録の書き方等のスキルを養成すると同時に、国際開発論、教育開発論などの講義を通じて現場の状況を把握し柔軟な対応ができる即戦力を育成することを目的とする。</p> <p>日本と全く異なる開発途上国での多様なボランティア活動に従事することに伴い、「長期海外実習」派遣前の実務教育に特化した課題研究科目を履修することにより、海外での長期の実務実習をより効果的なものとする事が期待できる。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives)▶</p> <p>参加者は、長期海外実習に特化した課題研究（渡航前国内研修）を受講することにより、国際協力や開発における基礎知識やスキルを身につけるとともに、異文化に対する理解力・適応力の重要性や、多様な価値観を持つ人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性、さらに自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (100分×全2回)</p> <p>第1回目 (2022年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解する。</p> <p>第2回目 (2022年9月上旬実施) は、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。また、補強研修及び派遣前研修で習得したことについて振り返り、発表する。</p> <p>(2) 課題研究</p> <p>2022年8月に、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターが主催する「渡航前国内研修」(関東会場および関西会場)において約10日間の補強研修及び派遣前研修の講座を受講する。</p> <p>(3) 事後学習 (100分×全1回)</p> <p>課題研究のまとめ (派遣学生全員が帰国後の2023年3月に実施予定)</p> <p>本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだ理論と5か月間の実践を踏まえ、1月末に最終レポートにまとめ、3月に口頭報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員</p> <p>選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。</p> <p>なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p>					

<p>(3) 費用</p> <p>補強研修・派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターへの交通費及び宿泊費等の実費が必要。国連ユースボランティア・プログラムへの参加費用として、予防接種費の実費(派遣国により異なる)、海外旅行保険および出入国のための諸費用が別途必要となる。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する「2022年度派遣の手引き (明治大学)」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読むこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センター指定の教科書</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社)</p> <p>『パリの国連で夢を食う。』川内有緒 著 (イースト・プレス)</p> <p>『えんぴつの約束——一流コンサルタントだったぼくが、世界に200の学校を建てたわけ』アダム・ブラウン 著 (飛鳥新社)</p> <p>『世界で生きる力—自分を本当にグローバル化する4つのステップ—』マーク・ガーゾン 著 (英治出版)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、本学担当教員が最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートによる評価：80%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>「課題研究」において、以下の点を守ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国連ユースボランティア」に派遣されるにあたり、全ての講義に出席が必要。やむを得ない事情で授業に参加できない場合は、必ず事前に申し出ること。 ・講義への遅刻、講義中の居眠りやスマートフォンの私的利用などは厳禁。 ・発言が求められる場面では、率先して発言するなど積極的に参加をすること。